公益財団法人 日本骨髄バンク 第85回 業務執行会議 議事録

開催方法：コロナ禍の影響によりWEB会議形式で開催
（本会議をWEB開催することに関して全理事の同意を得た）
日　　時：2022年（令和4年）10月21日（金）17:10～18:30
出　　席：小寺 良尚（理事長）、岡本 真一郎（副理事長）、佐藤 敏信（副理事長）
浅野 史郎（業務執行理事）、加藤 俊一（メディカルディレクター）
石丸 文彦（理事）、鎌田 麗子（理事）、鈴木 利治（理事）、瀬戸 愛花（理事）
橋本 明子（理事）、日野 雅之（理事）、福田 隆浩（理事）、三田村 真（理事）
椙村 岳央（監事）、藤井 美千子（監事）
欠　　席：高橋 聡（理事）
陪　　席：山崎 翔（厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐）
事 務 局：小川 みどり（事務局長兼医療情報部長兼広報渉外部長）、田中 正太郎（総務部長）
中尾 るか（ドナーコーディネート部長）、関 由夏（移植調整部長）
渡辺 良輝（広報渉外部長代理）、戸田 泉（ドナーコーディネート部ＴＬ）
竹村 肇（総務部）、上原 淳（総務部）
（順不同、敬称略）

1）　開会

開会にあたり小寺理事長が挨拶した。

2）　業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により本業務執行会議が成立した。

3）　議長選出

業務執行会議運営規則第5条により業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、小寺理事長が議長に選出された。

4）　議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第8条により議長と出席した副理事長が記名押印する。小寺理事長と岡本副理事長、佐藤副理事長がこれに当たるとされた。

5）　議事録確認

前回（2022年9月9日）の臨時理事会議事録を全会一致で了承した。

〔議　事〕

6）　報告事項（敬称略）

（1）スマートフォン紛失事案

中尾ドナーコーディネート部長が資料に基づき説明した。

この度は理事の先生方も既に承知の通り、コーディネーターのスマートフォン紛失という事案が発生している。この件に関してはドナーコーディネート部からコーディネーターへの様々な周知や指示等が不十分であったという部分があり改めてここでお詫び申し上げる。経緯について改めて説明する。

21 日夜、コーディネーターは実家に帰った。飛行機に乗って行く程遠い実家に戻ったところ、持ってきたはずのスマホがないことに気づいた。ただこの日の内には地区事務局代表には連絡できなかったので、翌日 22 日にコーディネーターから地区事務局代表に「紛失したかもしれない」と連絡が入り、地区事務局代表は速やかにドナーコーディネート部に連絡した。事実関係を聞き取ったところ、状況から、そもそも持ってくるのを忘れているのではないかと思われたので、自宅に残っている家族にも探してもらうように依頼をしながら同時にコーディネーター自身も改めて手荷物等を探した。

一方で事務局の対応である。コーディネーターのメールは必ず地区事務局に CC するルールになっているので、紛失の可能性と言われた時点ですぐ地区事務局には CC を確認して、このコーディネーターが調整医師等との調整に使っているメールについて何か問題になるようなものがあるのか見るように指示した。そうしたところ、ドナーの個人情報に触れる可能性のある文言、そのものに触れているものがあった。この状況を受けて、全地区のコーディネーターのメールの利用状況を確認した。ドナーＩＤ以外にドナー名を伏字で記載するのを禁止していたが、伏字利用していた地区事務局もあったため、この時点で対象地区のコーディネーターのメールを全部削除することを決定した。紛失したコーディネーターが所属している地区は最優先で当日中に、他地区は順次作業が追いつく限り削除した。この時はまだ「紛失の可能性」ということであったが、この後連休に入るタイミングであったため取り急ぎ全地区のコーディネーターに、事案が発生と改めてスマホの持ち出しに注意すること、メールのルール等を周知している。当該コーディネーターは 25 日に自宅に戻っている。そして自宅を探すがまだ発見できていない。週明けて 26 日 27 日~~に~~、このコーディネーターは件数の少ないエリアであることもあり兼業しているが、仕事とコーディネートがあり忙しくしている中でも引き続き自宅を捜索してもらっている。ただ捜索状況を地区事務局で確認したところ、探し足りないと思われる節があったので地区事務局代表者ら 2 名がコーディネーターの自宅へ行って捜索することを決定した。地区事務局からも飛行機で行くような遠い場所であったので実際に行けたのは 29 日の朝である。29 日は 2 名が自宅に入らせてもらって 1 日中捜索したが発見されなかった。30 日になって紛失事案としてバンクのホームページにも掲載して発表した。このタイミングで再度、全地区のコーディネーターに向けて改めてスマホのルールを周知した。

補足であるが、これまでコーディネーターが使っていたスマホのメールは ProgOffice というアプリを通して使っていたので端末そのものに残る仕組みではなかったのだが、そのサービスが急に終了してしまい Outlook に移行せざるを得なかった。その移行したのが 9 月であった。それに先立ち、移行するとメールがコーディネーターの端末に残ってしまうということを 7 月から 8 月にかけて全地区のコーディネーターの会議研修会で伝え、これまでとは違うので紛失に注意して欲しい、使い方に注意して欲しいと口頭で説明するとともに新たな注意点を書面でも渡していた状況ではあるが、長年安全な使い方をして来たということでコーディネーターが危険性を肌身に沁みて感じるというまでに至っていなかったと思われる。

今後の対策である。実施済みについては資料にあるように、本事案の周知、再発防止のための具体的な注意点を通知した。全国の地区事務局から実態の聞き取りをした。これまでの

スマホ内のメールをすべて削除した。改めてメール使用時の注意点を通知した。メールの使用はかなり制限している状況で日程調整だけにしている。コーディネーターはドナーの状況を伝えるときにはＦＡＸを使って地区事務局に報告するが、ＦＡＸ回線がない等ＦＡＸを使えない家が出ている。そのようなコーディネーターが全国に10名程度いてメールで状況報告をしていた。今回紛失したコーディネーターもその１人であった。状況報告をするとなると日程調整の内容よりも深い情報を入れてしまうので、より注意が必要であったところにあまり注意が行き届いていなかった。ＦＡＸを使えないコーディネーターはメールではなくてタブレット内のクラウドを使用してのドナー状況報告に変更した。パスワードを間違えたときのロック回数を10回から５回に変更した。万一紛失して誰かに拾得された場合でもロックを破られる可能性を低めた。これが実施済みの対策である。それから週明けに実施するのがスマホの使い方のルールを細かく定めた。週明けに発出する。

近日中に実施予定の対策である。紛失というのはどうしても人間であるので可能性はゼロではない。特にコーディネーターはコーディネート中に持ち歩くという事情がありドナーのことにも気をつけながら様々なことに注意を払いながらスマホを持っているので、何かの事情で落としてしまう可能性があると見なければならない。そのような場合でも個人情報が流出しない方法に限定してスマホを利用する。今まではアプリでそれができていたが、できなくなってしまったことで今後はスマホのルールを細かく定めて徹底しなければならない。今これは作成中である。このツールをより安全なシステムに変更していくということも大事であるので、先ほど言ったタブレットを使用するということも今はＦＡＸのない人に限定しているが、全員に広げる使い方を考えている。それからスマホにメールデータが残らない仕組みを今回使えなくなったが、何か仕組みがないのかどうか調査している。チェック頻度を高めるということも取り組む予定である。これまでも個人情報取扱いセルフチェックを年１回していたが、今後は2～3か月に１回に増やし意識付けを促す。内容もより意識付けになるような内容に見直しを行う。メール内容の抜き打ちチェックも必要であろうと考えている。またスマホ携行や自宅での管理ルールを作成し週明けに発出する。そしてクラウドを使用してのドナー状況報告を近日中に全コーディネーターに実施予定である。

中長期的に実施予定の対策である。コーディネーターがコーディネートの過程で事務局から送られてくる帳票にドナーＩＤやドナーの伏字等が入っているが、それらの帳票類すべて洗い出しを行って、帳票そのものやドナー氏名等項目記載の必要性を再度確認するとともにコーディネーターへの送付の必要性もチェックする。また確認検査では医師に書いていただく問診票などはコーディネーターが持参し医師に渡しているが、問診票にはドナーのフルネームと体調面の申し送りが入っているため、そのような紙をコーディネーターが持参することの見直しも行いたい。帳票類とともにマニュアル等の見直しと改善も行う。検証のための会議体の設置というのは、コーディネーターの働き方についてである。コーディネーターはスマホを持ったまま業務に出なければならない。携帯電話がなかった頃はできなかったのだが、今はコーディネーターが携帯電話を持っているために、ドナーは夜間でも休日でもコーディネーターに連絡できてしまう。今ドナーは忙しい方が昔以上に増えている印象がある。ファーストコンタクトをしようにも日程調整をしようにも夜間しかできないドナーもとても多い。そのような中で時間外に利用しなければならない状況が発生してしまっていたのが事実である。休日でもいつ何時ドナーから連絡が入るか分からないという認識を常にコーディネーターは持っていたものであるから、今回紛失したコーディネーターもそうであるが、帰省中や旅行中も持っていかなければいけないと思ってしまい持って行ってしまっていた現

状がある。そうしたコーディネーターの行動により期間短縮が図れたのも事実だと思う。ドナーとの連絡もすぐ着くようになり、医師との連絡もメールを使えば夜８時９時になっても連絡が着くことでメリットがあったのも事実である。それらに甘えコーディネーターの働き方、スマホを持ってそのような動きをしているという体制に関して検討して来なかったことは大いに反省すべき点と考え、その点からも見直しをする。場合によってはコーディネートの在り方にも触れながら考えないといけないと思っている。バンク事務局だけではなくて、様々な専門家に入っていただきながら今後検討して行く必要があると考えている。

（主な意見）

＜三田村＞　スマホの通信会社はどこか。

＜中尾＞　au である。

＜三田村＞　au に当該のスマホが紛失後使われたどうか確認する依頼をしたか。

＜田中＞　コーディネーターのスマホはMDMというツールで管理できる。紛失したときに電源が切られていた。その後も電源が入っていないか見ているが、電源が入った形跡はない。

＜三田村＞　使われていることはないということか。

＜田中＞　ログから見るとそのようになる。

＜三田村＞　電源が入っていないと場所の特定も含めＧＰＳでもトレースできないということか。

＜田中＞　そうである。電源が入っていればどの辺にあるか分かったのだが、今回はそこまでに至っていない。

＜小寺＞　関係者の方々、特に現地の地区事務局の方は離れたところまでわざわざ一緒に探しに行くということも加わって大変だったと思う。これは今のところ出て来ていないということか。

＜中尾＞　そうである。引き続き実家にも問合せして探してもらっている。本人も事務局の指示を受けながらありとあらゆる手段で探しているが、現時点で発見されていない。

＜椙村＞　個人情報漏洩は非常に重い話である。バンクとして３年前にも１度あった。しっかりと重く受け取るべきだと思う。この方は当然反省されていると思うが９月 21 日にスマホを紛失して警察の届け出が９月 27 日というのは遅いのではないか。もし自分のスマホを紛失したのであればもっと早く届け出るはずなので、もしかしたら危機意識は低下しているのではないかと感じている。いずれにしてもコーディネーターもたくさんいるので仕組みで解決していく観点が絶対に必要だと思う。スマホにメールデータが残らない仕組みを導入するなどは早急にやるべき。ＦＡＸも利用していると説明を受けたが、ＦＡＸの誤送信も起こり得るものなのでＦＡＸを利用しないような仕組みも考えて行く必要があるのではないか。

＜中尾＞　ＦＡＸに関してコーディネーターは誤送信がないように事務局にしかＦＡＸを送らない。事務局の番号を短縮で入れたそれ以外は使わないので、コーディネーターから誤送信はない。おっしゃる通り事務局からはあるのでＦＡＸについてはなるべく早い段階で無くしていく方向で既に検討を始めている。

＜小寺＞　厚生労働省からは本件について質問事項と意見が出されて、それを踏まえて我々も検討して、先般、私と事務局長、ドナーコーディネート部長、総務部長で移植室に行って今後のことについてお話しした。山崎先生から何かご追加あるか。

＜山崎＞　今回、中長期的目標と短期的な目標を上げていただいた。これらがすべて正しいのかという判断が中々難しいが、定期的に改善したことについて互いに共有して、ここまではできているだとか、ここから先はまだ検討だということを、やはり定期的に見て行く必要があるのかなというのは１つ思った。先程ＦＡＸで誤送信がないようにしているという話があったが、もしかしたらもっと良い方法でできることもあるかと思うので、そのような視点でもより良い安全な方法を取り入れていくことも大切かと思う。

＜橋本＞　本当にお疲れ様である。厚労省も含めて事務局の方も急ぎよく対応されたと感じている。ところでこの機に前から考えていたことを申し上げる。日本骨髄バンクのコーディネーターは兼業やアルバイトではなく、本業で専念する仕事であるべき。そのためには新たな方法を構築するなどして人数を絞れるようにしてはどうか。

＜三田村＞　今回の事案というよりはバンクとしてのリスクマネジメント、危機管理という観点から提案したい。例えば一般企業であればよく品質システムという考えがある。例えばＩＳＯである。事業に応じた形でどのような形で事業が適切に運用されているかオペレーションされているか。あるいは問題があった時にどのように対処するかということをまず手順書に明文化する。その手続きをしっかりと内部監査、外部監査も含めてそれが担保されていることを保証する。これを公に謳うことによって初めてＩＳＯを取得できる。そのようなことも含めてバンクがどのような形で品質保証システムを運営運用しているか、そのような観点が必要だと思う。品質保証システムに照らし合わせて言うと今回はＣＡＰＡということを発動する非常に重要な事案である。Corrective Action & Preventive Actionの頭文字でつまりリスクマネジメントに関わるような重要なインシデント、問題が起こった時にそれをいかにして是正するかという是正処置がプログラムとして記録される。その後それをどうやってオペレーションするか。中尾ドナーコーディネート部長が説明されたような内容、これからの対策を含めてしっかりと明記する。大事なことはそれらが何時どの時点で完結したか、クロージングしたかということをきっちりとトレースすることである。課題として中長期でアクションアイテムを出していただいたが、これをこのまま流しっぱなしにして、例えば議事録に残すくらいだけでは済まない。そのような意味でバンクとして問題が起こった時にそれをいかに是正するか、システマチックに運営するという体制も含めて今後整備していただきたい。それについて私もこれまでの経験があるのでぜひアドバイスしたい。

＜小寺＞　たしかにこのようなアクションを起こすという提案が出つつあるが、それが実際に実現されたかどうかというのを定期的にチェックしていくというのは、前にも同じようなことを岡本副理事長がおっしゃったと思う。これは非常に大事だろうと思っている。私としてこれは一種の警告信号であって、今のバンクのコーディネート体制だとまた起こるだろうと考えている。やはりドナーコーディネートのあり方、その仕組みについて皆さんと一緒に考えるべく、どのような形でそれを考えるか思案しているところである。最後の中長期的の部分にある検証のための会議体の設置は、中長期と言わずに現在の問題を解決すると同時に並行的に立ち上げてやって行きたいと思っている。その時には理事の皆様にまたご協力願いたい。これは外部委員の委員会を作るつもりはなく、理事の皆様方に加わっていただいて事務局と一緒に検討するというようにしたい。

（２）調整医師の新規申請・承認の報告

中尾ドナーコーディネート部長が資料に基づき説明した。

令和４年９月１日から令和４年 10 月 10 日に新たに申請・承認された調整医師の人数は 10 名、異動や辞退が７名いた。合計で 1210 名である。

（３）寄付金報告

渡辺広報渉外部長代理が資料に基づき説明した。

８月までは前年度を上回るペースで寄付金をいただいていたが９月は前年度の実績を下回った。令和３年度と比べると、今のところ約１千万円多く寄付をいただいている。

（主な意見）

＜小寺＞　バンクの財政事情も中々大変であるが、このような時期に寄付金をこれだけいただけるのは大変ありがたい。

（４）移植件数報告

田中総務部長が資料に基づき説明した。

2022 年９月の件数は国内ＢＭ67 件、ＰＢ23 件、国際０件の合計 90 件であった。予算対比で 45%である。９月時点で昨年度と比較して 47 件下回る厳しいペースとなっている。

（主な意見）

＜小寺＞　総務部長は割合あっさり言われたが、これだけ件数が減るということはバンクの財政にとっては非常に深刻な問題である。どのようにするのか今考えているところである。造血細胞移植の造血幹細胞源、ソースという点では多様化し、かつてのバンクを通したアダルトドナーからの移植が唯一の非血縁者間移植という訳ではなくて、臍帯血移植も行われるようになって、さらにはまたもう一度戻って血縁間ＨＬＡ不適合移植も可能になったということもある。このような情勢を踏まえながら、依然としてどちらも同じように選べるということになると、バンクドナーからの移植が最良ということだと思うので、そこをアピールしながら対応して移植数の増加につなげて行きたいと考えている。

（５）全国大会報告

渡辺広報渉外部長代理が口頭で報告した。

９月 24 日に行われた骨髄バンク推進全国大会 2022in 広島について報告させていただく。あいにく台風が前日から猛威を振るい理事の御三方が会場に来ていただけなかった。そのような中で第一部式典は粛々と行われた。今日は主に第二部の電通と共催した社会を変えるアイデアフェスの報告をさせていただきたい。ドナー登録を増やすにはというシンプルなテーマで広島県内の高校、大学、オンラインも含めて全部で 35 名の学生が参加してくださった。

今回、電通との共催となったが、電通からメンターという指導係を 10 名派遣してくださった。11 チームに対して学生が良いアイデアを出せるように 9 月 10 日のインプットセッションで、アイデアの出し方や具現化の講義をしてくださった。それから前日 23 日のアウトプットセッションで、インプットセッションからアウトプットセッションの間に学生が各々考えてきたこと、作業してきたことのアイデア出しでも協力いただいた。24 日はステージで学生がパワーポイントを使って発表した。アイデアフェスの内容としては非常に濃い良いものであったと思う。学生が本当に熱心で、もともと赤十字ボランティアサークルの方であるとか、広島国際大学には日本唯一の骨髄バンク支援のサークルがあり、その方々が 23 日も会議室を閉める夜 8 時くらいまで熱心に活動してくださった。当日は緊張した様子もあったが、皆楽しそうに自分たちのアイデアを自由に、我々だと「こういうのは無理だよね」と制限をかけてしまうが、そのようなことなしに、かつ非現実的でないものを電通がうまくアイデア出しのフォローをしてくださり 11 チームが発表した。グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞の 3 校表彰の予定であったが甲乙つけがたい学校があり最終的に 4 校が表彰された。グランプリチームは登録者の本気度、応諾率アップの部分が課題になっているが、この部分を掘り下げてくださったり、環境整備のための企業の協力、ドナー休暇のことについて学生からアイデアとして出してくださり非常に優秀だと思った。この 4 校のアイデアについては電通のクリエイターチームがポスター化をして、このような企画をバンクがやるのだと、すべてが実現可能かどうかは分からないが、そこで発表して優劣を決めておしまいではなくて、これを実際にドナー登録者拡大のためにアクションを起こしていく。今電通でポスターの製作に入っているところである。2 分ほどの動画で全国大会の様子を見ていただく。

【アイデアフェスのショートムービーを視聴】

今のが当日の雰囲気である。最後に囲み取材というほどではないが来ていただいたマスコミの方から理事長や受賞者の方がインタビューを受けた。今回はメディア動員という点でも非常にうまくいった。表示しているがフェスの状況を伝える新聞記事である。今回司会の女性アナウンサーは広島ホームテレビから出していただいたが、広島ホームテレビが 9 ジラジという夕方の情報番組で約 9 分間の時間を割いて広島の学生の骨髄バンクの取り組み、最終的には全国大会をやるという告知の特集番組を作ってくださった。内容が良かったので愛媛のテレビ局が追加で放送してくださり嬉しいニュースが来ている。電通との共催ということで、お金が掛ったのではないかと聞かれたこともあったが、電通がバンクに協力したいということで共催という形をとって、本来このようなお願いすると何百万という単位であるが、実際には交通費と実費のみで多くの方が本当に一生懸命やってくださった。我々だけであると、このようなノウハウがないものであるから絶対できなかったことなので、本当に有難いことである。今回、共同通信の辻村編集委員という広報推進委員会にも入っていただいている方が、広島まで取材に来てくださり、若者の取り組みや「都合つかず」で辞退するドナーの問題、ドナー休暇が進まない問題なども踏まえてバンクの企画記事を書いてくださっている。そちらが紹介されたらお伝えしたい。このようなイベントで費用は発生するが対効果、これによってドナー登録者がどれくらい増えるか等の間接的な効果測定が難しいが、直接的な効果測定として広告換算値がある。例えば新聞の紙面の大きさがこのくらいでいくら掛かるだとか、ＣＭで何秒映ったからいくら掛かるだとか、その点では非常に大きな広告換算値を得ることができたと思っている。バンクがメディア動員をして感じるのは、やはりオン

リーワンで社会的意義のある組織であるのでメディアが取り上げてくださりやすい。財政的に厳しくて広告にお金を使えないということがあるが、このようなイベントは各方面の協力を得てなるべく実施してバンクの認知を上げるためにまず露出を増やす取組みを広報渉外部としてはアイデアフェス以降も継続したい。

最後に全国大会とは違う報告になるがＡＣの「おかあさんも、治るかな」というキャンペーンが進んでいるが、安倍元首相の事件やauの電波障害で金曜ロードショーの視聴率の高いジブリのところで流された。ＡＣは最終的には億を超える広告換算値があると言われているが、既に７月から始まって２か月ちょっとで億を超えているという報告が入っている。電車や駅で目にする方がいるかと思う。来年度もＡＣの支援キャンペーンが決まった。これから色々な広告代理店がバンクにこのようなものを作りたいと取材をしてくださるかと思う。ＡＣの広告は自分でお金を出してＣＭを作ってもらうのではないので、こちらの意図がどこまで反映されるかというところに難しさがあるが、こちらとしてはなるべく多くの方に情報提供をして来年度も良いＣＭを作ってもらえればと考えている。

（主な意見）

＜小寺＞　広島の全国大会は今までの全国大会のイメージからはだいぶ飛んだ感じの元気で若々しい大会であった。電通はそこでのアイデアを生かしてこれから色々やってくださるのか。

＜渡辺＞　そうである。学生のアイデアを見た目として伝わりやすものにクリエイターチームが精度の高いポスターを作ってくださっている。それを例えば企業を巻き込んで具体的にしていくのかとか、掲示の仕方で目に留まるようにするのかとかをこれから詰めていく。

＜小寺＞　これがドナーリクルートにどれくらい反映されるのか見るのは非常に難しいとは思うのだが、広報渉外部としてこのような広報渉外の活動がこんな風にドナーリクルートに反映されたというようなデータをなるべく集められるよう考えて欲しい。

＜渡辺＞　広告の間接効果になるので、例えばやめたことですごい減ったりすると、やっぱり効果的だったのだと逆説的な検証ができる。ただＷＥＢアンケートで骨髄バンク自体の認知が非常に低いということがはっきりしているので、とにかくそこを上げるためにまず知ってもらうと、これをやって行きたい。

＜小寺＞　この大会は台風に見舞われて加藤理事は新幹線の中で１泊させる大変な思いをさせた。

＜加藤＞　理事長が言われた通りの状況であった。最大限の努力をして駄目だったことなので私としては申し訳なく思うがやむを得なかった。報道で新幹線の中で一夜を過ごすだとか他人事として見ていたものが身に降りかかって、なるほどこういうものかと貴重な体験をした。

＜橋本＞　私も鎌田理事と一緒に東京駅で３時間ほど過ごすことになった。でも現地にいる関係者から次から次へとＬＩＮＥやメールが入ってきて、「今回すごく楽しかった」や、自分の子どもや姪とかが参加して「生き生きしていた」など、今までと一味違う感想が寄せられて嬉しかった。ただ一つ付け加えになるが、学生を集めるということで電通がおこなった募集だが、もうちょっと早ければという意見も来ていた。学生は１年間のスケジュールが早くに決まっている。学生だから夏休みは暇という

ことでもないので、できるだけ予定に組み込めるよう募集はもっと早く、ということだそうだ。

以上